

高齢者叙勲 受章おめでとうございます



瑞宝双光章

元大洲市立大洲小学校長

井上 ^{えいじ} 英二 さん
(平野町野田)



瑞宝双光章

元肱川町立大谷小学校長

井内 ^{いさお} 功 さん
(長浜町下須戒)

地域を守る新たな力 消防団に27人が入団

令和8年度の大洲市消防団入団式が4月24日(金)、市役所であり、4月より新たに27人が消防団に入団しました。

式では、矢野^{まさかず}正祥団長が「地域を守るためには、まず自分自身や家族の命を守ることが大切。そのうえで、安心・安全な地域づくりのために活動にあたってほしい。また、団の活動は組織で行うもので、厳しい規律があってこそ成しえるもの。日頃から仲間との信頼関係を築きながら、チームワークを大切にしてほしい」と激励しました。



49人が決意新たに 社会人としてスタート

新就職者激励大会が4月28日(火)、大洲商工会議所で開催され、49人の新就職者が参加しました。

主催者を代表して大洲商工会議所の久保^{のぼる}登会頭は「一つ一つ誠実に粘り強く取り組むことで、周囲から信頼される。また、周りの人の協力や支えがあって成長していくということを忘れないでほしい」と激励しました。また、二宮市長は「あいさつや笑顔を大切に、積極的に交流することで人の環^わを広げてほしい」とエールを送りました。

大会後は、町並み散策が行われ、新就職者たちは事業所の枠を超えて親睦を深めていました。



新しい地域おこし協力隊員が着任

大洲市の持続可能なスポーツ環境づくりに取り組むため、中野^{かいと}海渡さん(大阪市から転入)が5月1日(金)、地域おこし協力隊として着任しました。この日、二宮市長から辞令書を受け取った中野さんは、「地域スポーツ振興への機会を与えられ感謝している。地域の子供たちのために頑張りたい」と抱負を語りました。中野さんは、八幡浜工業高校在学中にバスケットボールの経験があり、今後、さまざまな部活動に関する学校、保護者、地域、行政の調整役を担うことになっています。



ニュース

きらめき

シリーズ

お知らせ

情報ひろば

図書館

未来を拓く

健康ナビ

相談・救急



治水安全度の向上へ 山鳥坂ダム起工

国土交通省が建設を進めている山鳥坂ダム本体工事の起工式が5月10日(日)、風の博物館(肱川町予子林)で開かれ、行政・地元関係者など約100人が出席しました。

式典で中村知事は「肱川の管理は、河川整備やダムなど複合的な対策なしでは困難。大事なものは人の命を守り、地域の安全性を高めること。工事がスムーズに進むことを願う」と早期完成に期待を寄せました。また、二宮市長は「肱川の治水対策は本市にとって最重要課題。治水安全度をさらに高めるものとして期待している」と述べました。その後、関係者によるくわ入れが行われ、工事の安全を祈願しました。

式典後には、大洲臥龍太鼓保存会による太鼓演舞や、肱川こども園児による歌とダンスが披露され、起工式に花を添えました。

ダム建設の総事業費は1,980億円を見込み、令和14年度の完成を目指しています。完成後は肱川水系の河川整備とあわせて、平成30年7月豪雨と同規模の大雨が降った場合でも、肱川本流で水があふれることなく安全に流れる見込みです。



カヌースプリント国際大会の成果を報告

今年5月にニュージーランドで開かれたカヌースプリント国際大会(16歳以下部門)で5種目に出場した西田飛博^{たかひろ}さん(大洲高1年)が5月12日(火)、市役所を訪れ、男女混合1人乗り4×200mリレーで金メダル、500m2人乗りで銀メダル、500m4人乗りで銅メダルを獲得したことを二宮市長に報告しました。西田さんは、結果を振り返り、「うれしかった。チーム選手への声掛けを大切にしたい。今後、個人種目で活躍するには、体力向上が必要。7月の世界ジュニア大会(カナダ)の出場に向け、頑張りたい」と抱負を語りました。



今年で最後 エコラブトマト出荷最盛期

J.A愛媛たいきの独自ブランド「エコラブトマト」の出荷が最盛期を迎え、5月15日(金)に第24回トマト品評会が開催されました。

現在27人の農家が6.2ヘクタールで栽培。6月末にかけて出荷のピークを迎え、12月までに500t程度の出荷を見込んでいます。

生産者の西野洋一^{よういち}さん(若宮)は「今年は天候に恵まれ例年より甘味と酸味のバランスがとれたおいしいトマトに仕上がった。来年から広域選果によりブランドが変わるが、今後も良いトマトを届けたい」と話していました。



子供たちに読書の楽しさを伝えて

子供の読書活動への意欲を高める優れた実践が評価され、文部科学大臣表彰を受賞した山中登代美さん（徳森在住）が、5月18日(月)に市役所を訪れ、二宮市長に受賞を報告しました。

山中さんは、平成10年に親子で絵本に親しむ「おはなし会」を立ち上げ、児童館や幼稚園、小学校へと活動を広げ、読み聞かせを中心にワクワクする絵本の魅力を伝えてきました。子供だけでなく大人も絵本の世界へ引き込み、地域の読書ボランティア活動の土台を築いた先駆者として現在も活躍されています。



夏の風物詩「大洲のうかい」をPR

「大洲のうかい」をPRする県内訪問宣伝隊の出発式が、5月21日(木)に市役所で開かれました。出発式で観光協会大洲支部の太田一郎支部長は「鵜舟と屋形船が並走する『合わせうかい』は大洲でしか味わえない魅力。しっかり宣伝したい」と意気込みを語り、宣伝隊9人が県庁や各報道機関へ向けて出発しました。

また、2年間にわたり鵜匠見習いとして修業してきた高月浩志さんが、10年ぶりの新人鵜匠として今シーズンデビューする予定で、新たな担い手の活躍にも期待が高まります。



ドラゴンボート、おしどり湖を駆ける！

肱川地域の初夏の恒例行事、おしどり湖ドラゴンボート大会が5月24日(日)に開催されました。

今年で29回目となる本大会には、県内外から25チーム295人がエントリー。強風の中、多くの歓声を浴びながら各チームがタイムを競いました。

決勝戦では、兵庫県相生市から参加した「相生良權ペーロンクルー 白龍狂う」が、優勝経験チームとの接戦を制し、優勝を勝ち取りました。



棚田を守り未来へつなぐ 榎谷棚田で田植え体験

棚田の保全・活用のため、2016年から棚田オーナー制度を導入している榎谷棚田保存会が、6月5日(金)から7日(日)までの3日間、榎谷棚田（戒川）で田植え体験を開催しました。6日(土)には、市内外から8組64人が参加。参加者たちは、初夏の日差しの中、泥だらけになりながら丁寧に苗を植え付けました。

夫婦で参加した熊野さん（四国中央市）は、「自分でも米づくりをしているが、棚田のお米はおいしいので、毎年楽しみに参加している」と笑顔で話していました。



ニュース

きらめき

シリーズ

お知らせ

情報ひろば

図書館

未来を拓く

健康ナビ

相談・救急